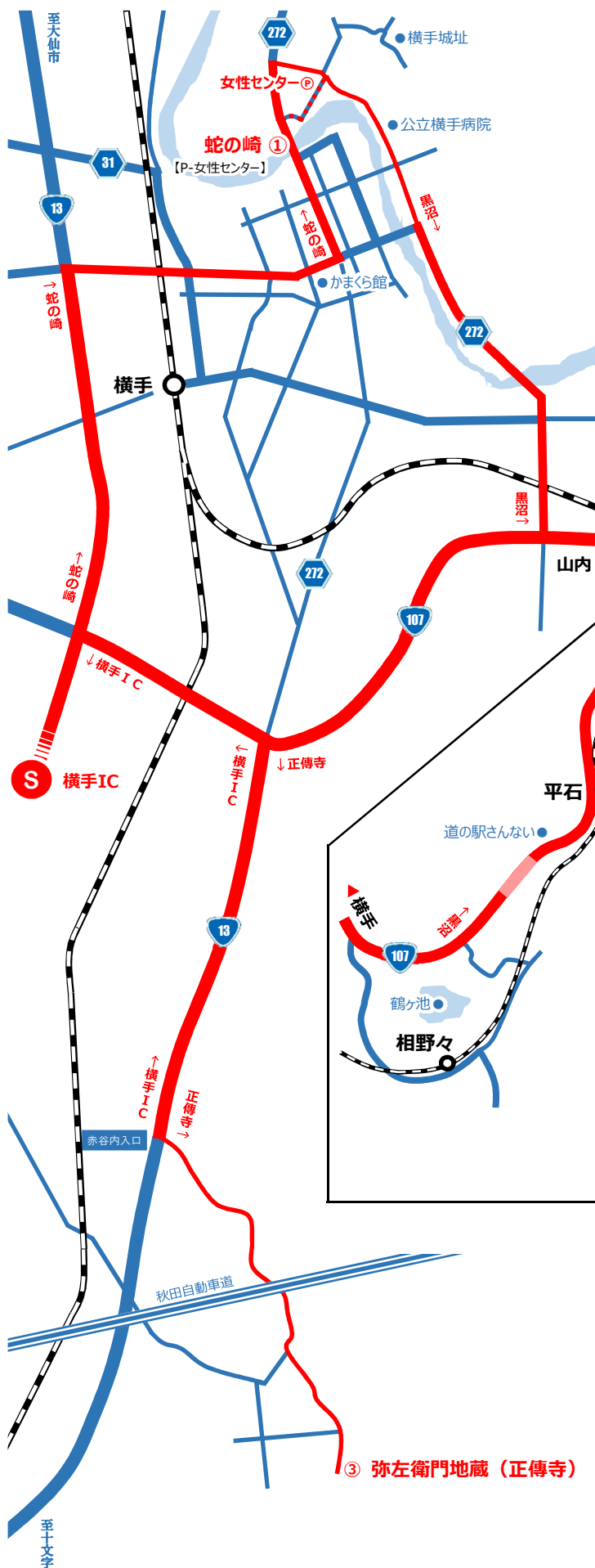


横手の伝説をめぐるドライブコース 横手～山内地区ルート MAP

横手IC 車4.8km 9分 (女性センター①より徒歩5分)



① 蛇の崎

横手市蛇の崎町
(県道272号線)



横手川にかかる橋で、名前の由来に二つの説がある。一つは、後三年合戦において、源義家がこの川のつり橋を渡ろうとした際につり橋を落とされ、護岸用の「蛇籠」につかまることで一命をとりとめたことにちなんで「蛇籠が崎」と呼ばれ、「蛇の崎」に転じたという説。もう一つは、この川に古くから「水蛇」が棲んでいたと言われ、「蛇が崎」と呼ばれていたものが転じて「蛇の崎」になったという説。また、近くの鐘つき堂の下の方には河童が棲んでおり、通りかかる人を引きずり込むと、いまだに噂になっている。

② 黒沼

【Pあり】

大松川ダム芝桜公園

黒沼 車13.2km 20分

県指定無形民俗文化財 横手の送り盆行事

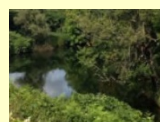
盂蘭盆会行事の送り盆まつりを締めくく「屋形舟の繰り出し」は蛇の崎橋で最高潮を迎えます。横手若衆による「屋形舟のぶつけあい」は、夏の横手の風物詩となっています。

〔開催日：例年8月15・16日〕
15日…盆踊り、16日…屋形舟繰り出し・花火ショー



② 黒沼

横手市山内大松川
(大松川ダム)



天長4年の大地震でできたと伝えられている黒みがかつた陥没湖。「旱魃(かんばつ)の年も水位が下がらない」と言われ、平鹿・仙北地方の農家が雨をいをする霊場でもあった。また、古くから伝わる長者伝説に関わる沼でもある。昔貧しい旅人が、南部で若い女に黒沼にいる妹へと手紙を届けるように頼まれた。言われた通り出羽路を辿り、黒沼にいたその妹へ手紙を届けるとお礼に金脈をもらった。その旅人は一躍「福万長者」と呼ばれる身になったという。

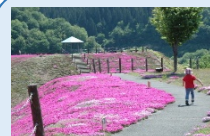
車15.5km 21分

③ 弥左衛門地蔵 正傳寺

横手市大屋新町字鬼嵐117
(間)正傳寺
0182-33-5723



昔、弥左衛門と角兵衛という非常に仲の悪い二人の年寄りがかいた。ある夏、日照り続きで米が不作になった。弥左衛門は肝煎(幕府の認めた名門)であり、ここぞとばかりに年貢が納められない角兵衛の家を壊した。しかし、この話が殿様の耳に入り、やりすぎた弥左衛門にはりつけの刑を命じた。弥左衛門が刑場に引きずられていく際には正傳寺の前を通り、和尚さんが救ってくれんことを願ったが、和尚さんには警護人に阻まれて手を世えなかった。弥左衛門が処刑された後、和尚さんの元に弥左衛門が現れ、自分の姿をこの世に残してくれと頼んだ。そこで和尚は地蔵を建て、供養に明け暮れることとなった。



すぐそばの芝桜公園の見頃は例年5月下旬～6月上旬



大屋梅の梅林でも有名
見頃は、例年4月中旬～下旬

横手IC 車5.2km 9分